

平成 28 年度 事業報告

5. 法人名 社会福祉法人 志々満保育園

6. 定員 及び 入所状況

(定員) 90名

(年齢別 年間入所児童推移表)

		乳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合 計	前年実績	対前年	
4月	標準時間	2	13	16	12	18	20	81	92	92	0
	短時間	1	5	2	3	0	0	11			
5月	標準時間	4	15	17	12	18	20	86	94	92	2
	短時間	1	4	0	3	0	0	8			
6月	標準時間	4	16	18	13	18	20	89	95	95	0
	短時間	1	3	0	2	0	0	6			
7月	標準時間	4	15	18	13	18	20	88	95	97	△ 2
	短時間	1	4	0	2	0	0	7			
8月	標準時間	4	15	18	13	18	20	88	95	96	△ 1
	短時間	1	4	0	2	0	0	7			
9月	標準時間	6	15	18	13	18	20	90	96	93	3
	短時間	0	4	0	2	0	0	6			
10月	標準時間	7	15	18	13	17	20	90	96	99	△ 3
	短時間	0	4	0	2	0	0	6			
11月	標準時間	8	15	18	13	17	20	91	99	101	△ 2
	短時間	0	6	0	2	0	0	8			
12月	標準時間	8	16	18	13	17	20	92	100	101	△ 1
	短時間	0	6	0	2	0	0	8			
1月	標準時間	8	16	17	13	17	20	91	99	100	△ 1
	短時間	0	6	0	2	0	0	8			
2月	標準時間	7	15	17	13	17	20	89	99	100	△ 1
	短時間	1	7	0	2	0	0	10			
3月	標準時間	7	14	17	13	17	20	88	99	99	0
	短時間	1	8	0	2	0	0	11			
合計	標準時間	69	180	210	154	210	240	1063	1159	1165	△ 6
	短時間	7	61	2	26	0	0	96			
	合 計	76	241	212	180	210	240				
前年実績		117	172	203	226	240	207				
対前年		△ 41	69	9	△ 46	△ 30	33				

7. 法人経営 及び 財務管理

全体では年間を通して定員を充足し、特に1歳児の入所需要が高く、年度後半は2組に分けての保育体制となった。引き続き近年の幼稚園や認定こども園等との競合による2・3歳児の減少傾向が顕著である。前年度より若干の入所児童減少が見られたものの、新制度に対応してのキャリアアップの早期導入などにより保育園の増収に繋がったことで、職員への還元はもちろんのこと、財務管理も潤沢であった。このことから、長期計画で目標とする500万円の「保育所施設・設備整備積立預金積立」が可能となった。更に人材確保が困難であったために、例年よりも余剰職員配置が抑えられ、300万円の「人件費積立預金積立」ができたが、これについては今後ますます深刻化するであろう人材不足の対応に充てる見込みである。

施設整備として旧園舎の塗装修繕工事を実施。さらに通信セキュリティーの導入やサーバーの容量増取替、リース満了の複合機取替によるデータ管理向上など情報管理の強化ができた。

4. 職員配置 及び 労務管理

(平成 28 年度当初職員配置表)

区分	職員現員数					備考
	常勤職員(人)		非常勤職員		合計	
	正職員	臨時・嘱託	(人)	常勤換算	(人)	※嘱託医 2 人は職員数に含まない
施設長	0	1	0		1	<input checked="" type="checkbox"/> 専任 <input type="checkbox"/> 兼任
保育士	11	4	3	1.5	16.5	
看護師	0	0	1	1.0	1.0	うち准看護師 0人
調理員	2	0	3	1.5	3.5	
事務員	1	0	1	0.5	1.5	
支援 拠点	保育士	0	0	3	1.6	2.1
	スタッフ	0	0	1	0.5	

配置基準を充足した保育体制であったが、療育は未認定でも配慮を必要とする園児も多く、保育士の負担感となっている。新卒職員の募集が無く職員確保に苦慮しているものの、これが逆に職員全体の平均勤務年数のUPとなり、チーム保育加算の該当による高額一時金の支給ができ、在職者の所得処遇改善に繋がった。とは言え休暇の代替保育士の配置が困難なケースも生じており、保育士増員による勤務環境の改善が課題となった。

5. 施設運営 及び 保育全般

引き続き『一人ひとりの子供の最善の利益を第一に考える』基本を最優先に、丁寧な保育を心がけた。福祉と経営のバランスを取りながらの施設運営に努めている。

① 地域と共存した的確な保育サービスの提供

- ・保護者を子育ての中心とした働きかけや、家庭と集団が共に支えあう子育てをめざし、行事や園内掲示、ホームページで、「見える保育」を意識した。
- ・継続して小学校を初めとする地域連携に努めている。フォーリンク企画での、唐子幼稚園・桜井保育所との年長児就学前交流も定着した。

② 子育て支援

- ・事業政策の変化により活動を縮小せざるを得ない状況であるが、世代交流等を中心に地域に根差した活動展開を心掛け、老人施設や老人会の方にも喜ばれた。

6. 職員資質の向上

- ・保育の工夫や自主性において職員の意識向上が見られる。園全体を把握し、組織向上への役割意識や貢献意欲をどう育てていくかが今後の課題である。
- ・「自分なりの保育」から、全職員が同じ目標で保育ができるよう、細やかで十分な話し合いを目指したが、保育士不足などから一斉職員会の時間確保がますます困難となった。こうした中、ノートでの伝達など細やかな情報共有体制の意識が向上した。
- ・キャリアアップ制度による処遇改善の評価項目を提示し、自己評価・保育園評価結果の配布面接等で意識向上と個々の目標を明確にすることができた。

7. 施設整備

- ・日常的な点検管理体制は、相互再検により適正に実施することができた。今後は、日々の取扱いの改善・早めの修繕対応などで、維持管理の向上へ繋げたい。

8. 安全・危機管理

- ・防災・避難計画を繰り返し見直し、避難所への避難訓練も継続実施している。更に、有事に判断して対応できる意識やスキルの向上等、更なる人的環境の向上に努めたい。